

## 初心をふり返る!

新年度になり一ヶ月、五月は黄金週間で一息をつきながらも、学校の教育活動も充実に向かってスタートします。と同時に五月は「初心をふり返る」時期でもあります。

「初心、忘るべからず」という阿弥陀の言葉を聞いたことがあると思います。初心とは「何か新しいことに挑んだり臨んだりする時の、新鮮な初々しい気持ち」のことです。物事、時間が経って慣れてくると、そうした新鮮な気持ちや意欲が薄れてきて、気を抜いたり、力を入れなくなってしまうたりするということを戒める言葉です。

阿弥陀は三つの「初心」があると言っています。最初は、習い事で何事も最初から上手にできたり、うまくいったりすることはありません。だから、間違えもするし、失敗もする。そのときの悔しさやみじめさが習い始めの「初心」です。



続く「時々の初心」とは、そうした努力や修行によって、初めて何かができたときの感動や喜びの気持ちのことです。それを忘れずに更に努力に磨きをかけていくことが大切であると言っています。

最後の「老後の初心」とは、年と経験を重ねて、物事が上手にできるようになったときでも、それに満足してはいけない。常に習い始めの頃の未熟さや失敗を忘れずに、より良い物を求めてたゆまぬ努力・修行を続けていくことが大切です。「初心、忘るべからず」にも三つの意味がありこの「初心」の心得を、しっかり伝えていくべきだと言っています。生徒たちだけではなく私たち大人にもあてはまるのではないのでしょうか。

新緑の五月、もう一度全職員で自分たちの姿勢を見直し、常に新しい視線で生徒たちを見守り指導にあたっていきます。



たつの市立新宮中学校  
校長 芝崎 幸成

